

アスクール (ASCL) がスタート

菅生こども文化センター

TEL 976-0444

学校の授業が終わったら、カバンを背負ったままでも、直接菅生こども文化センターへ行けるようになりました。もちろん、今までのように一度家に帰ってから利用することもできます。

対象 小学1年生～6年生

利用時間 月曜日～土曜日の放課後から午後6時までの自由な時間
(学校休業日は自由来館できます)

費用 無料(傷害保険に任意加入、年額500円)



なお、アスクールは、子どもが健康で豊かな放課後を過ごせるようにと、こども文化センターの利用方法を拡大したもので、放課後お子さんを預かりするという制度ではありません。

蔵敷こども文化センター

TEL 977-2577

第10回ぞうさんまつり

6月13日(土) 10:00～15:00

模擬店とゲーム

14日(土) 14:00～16:30

人形劇など催し物

ミニ四駆大会

6月27日(土) 10:00～16:00

けん玉の日 毎週火曜日

卓球練習の日 毎週金曜日

ミニホッケーの日

第1、3、5土曜日

宮前市民館菅生分館

TEL 977-4781

★分館まつり5月23日(土)24日(日) 10:00から
さわやかな5月の土日は分館まつりで

「コンサート」や「ダイオキシン汚染の実態を知る」講演会などを中心に、各利用サークルの多彩な発表や講習会が催されます。フリーマーケット、野菜・花の即売会もあります。喫茶・軽食も楽しめます。

★高齢者教室が始まります

福祉や介護のようすをみすえながら、日々の生活を考えます

〈期間〉6月10日～12月9日第2、4水曜(全11回)

〈時間〉午後1時30分～3時30分

〈対象〉おおむね60歳以上の方

〈参加費〉無料(ただし、保険料として500円)

〈申込〉5月27日(水)午前10時より電話で



うんどう会

菅生小

5月24日(日)

9:00から

稗原小

5月31日(日)

8:50から



編集後記

菅生中学校区の地域教育会議も4年が過ぎ、その活動も少しスムーズになりました。PTAから選出されてきた子育て真っ最中の委員さんが元気の源です。今回は川崎市内の広い地域から元気に活躍している方々と「地域教育会議ってなあに」という座談会を企画してみました。

編集委員：井上、高木、七浦、水谷、生駒

1998年5月19日

発行：菅生中学校区

地域教育会議

編集：広報委員会

TEL：977-8787

とらいあんぐる菅生

住民委員を募集中

参加しませんか

地域教育会議に

「地域教育会議」というと何となく堅苦しい感じがしますね。ほんとうは、地域と学校と家庭が力を出し合っ、子どもたちのことを考えていくための大切なシステムです。お子さんがいてもいなくても、とても忙しい人もだれでも、菅生に住んでいれば参加できます。地域にたくさん仲間ができます。子どもたちとふれあうこともできます。ぜひ、住民委員になって地域教育会議に参加しましょう。



住民委員募集要項

1. 定員 5名以内
任期 2年以内(再任を妨げない)
2. 応募資格
○菅生中学校区に居住している20歳以上の人
○学区内に住む20歳以上の大人10名以上の推薦を得た人
3. 応募方法
○所定の応募用紙、推薦用紙に必要事項を記入し、事務局(菅生中学校)に提出してください。(応募用紙、推薦用紙は、菅生小学校、稗原小学校、菅生中学校)にあります。
○応募締切り
平成10年5月29日(土)



地域教育会議って？

川崎市の51中学校区すべてで地域教育会議が始まりました。市内各地で地域教育会議にたずさわっている方々を菅生に招き、ざっくばらんに、地域教育会議についてあれこれ話し合ってみました。



吉田(高津) 佐野(中原) 石堂(中原) 庄司(南加瀬) 玉上(宮前平) 相良(菅生小) 野上(稗原小) 小田(菅生中) 薄井(菅生) 小路(菅生) 伊藤(菅生) 工藤(菅生) 水谷(菅生) 七浦(菅生) 井上(菅生) 高木(菅生) 熊谷(生涯学習推進課) 夏井(生涯学習推進課) 生駒(司会:菅生)



学校との関係は？

吉田 さまざまな壁にぶつかり、とまどっている。全体で50人の委員がいるが、出席率が悪い。総意をまとめるには時間がかかり案が出て企画の段階で無理ということも。自主的な活動だと思っていたが、実際は事務局の市民館から指示があり、それをやるしかない現状に疑問。将来的には地域住民のものになると思っています。

工藤 「制服」とか「給食」とかのタブーの面に触れると、学校の反対に出会う。話し合いの方向性を決められてしまう。いっそ、学校を外した方がいいのではないか。

司会 学校を外して活動すれば動きやすくなるが、学校と一緒にやるのが求められているのでは。

工藤 地域教育会議担当の教師が学校を代表して入ってくれば、仕事の延長だから、対立してしまう。

佐野 地域教育会議は、学校でもなく地域でもなくPTAでもない4つ目の組織。教師もボランティア意識で入ってほしい。先生方に浸透していないのが一番の問題。企画をもちかけて

も、指導要領を楯にしてくることも。学校とどううまくやっていくかが課題だ。

庄司 南加瀬ではスタートラインに立ったところ。地域と学校がいっしょにできることを考えている。私は教師が学校を代表して参加してもいいと思う。どこで手を結べるかだと思う。PTAと地域教育会議が協力しあえたらいい。

相良 公務分掌で担当が分けられる。住民として参加できれば理想的だ。

伊藤 地域全体を「教育の場」として考える。かつて週5日制について議論したときに感じたことだが、学校もPTAも子ども会もそれぞれ悩んでいるのに、お互いに悪いところは知られたくないし、いいところは競争する。いつまでも一つの学校、一つの組織にこだわっていないで、みんな考えたらいいと思った。地域教育会議こそがそういう組織ではないか。

野上 今、地域の教育力が大切。対立も結構。お互いにどうあるべきかを闘わせることによって教師も変わる。また、教師も地域に学ぶ発想が大事だと思う。

工藤 子どもの成長は速い。3年間のうちに変えてそれを体験して卒業しても

らいたい。親としては、一瞬、一瞬が勝負。子どもは待てないということだ。

本音でいきたいね

小路 かつて、三校促進委員会というのがあり、こういう子どもがいてこういう問題があるんだというのが学校から出ていた。地域教育会議に代わってから何も出なくなった。アンケートをとっても何も見えてこない。

薄井 地区懇を地域教育会議でやると、小・中いっしょになり、問題を出しにくい。地域教育会議はむしろ地域の団体の会議ではないだろうか。

小田 地域の重要性は教師仲間でも意識してはいるが、実践は難しい。

相良 地域教育会議の存在は分かっているけど、意識の問題もある。地域にも壁がある。どう接点を作っていくかが大事。職員への報告は行っているが、価値観の違いもあり、見えていないのが現実である。

司会 お互い気づかなかったことに気づくことが大事。学校は守りの姿勢が強い。そのような中で、どうやって子どもたちに返していけばいいのか。

野上 教師も地域の人もそれぞれの価値観がある。地域の問題に、地域の人自身も目を開かなければならない。子どもの教育を学校にすべて依存する傾向が強い。

工藤 教育者として「教育はこうでなければならない」という教育哲学がほしい。

野上 教師にも本音はあるが、自己規制が働く。

工藤 先生は子どもにとって家族の次に接する時間が長い。自分の感性で接してほしいと思う。また、問題を自分たちだけでかかえていないで、こういう場にもっと出してほしい。こちらが裸の面を出しても、建前で対応されてしまう。

住民合意の場

玉上 子どもたちの気持ちを聞き取る調査から始めた。子ども部会では、フリーマーケット、スポーツ、老人体験など。大人部会では、中学校でのワープロ教室は好評のようだ。

学校との関係では、仲良くぼちぼちという面と急がなくてはならない面とがある。学校は閉鎖的であってはならない。学校に住民が出入りすることに意義があ

る。子どもたちも見える。8年目になると、地域にも浸透し共通理解も得られやすくなっているようだ。

私個人はあまり教師には期待してない。現システムでも学校は変わる。川崎の学校を変えようと思えば、住民合意の場として地域教育会議は使える。

私自身は中学生とかかわりたいと思っている。もっとガス抜きをさせたい。

庄司 地域教育会議で子ども会やPTAや地域でやっていることを整理できたらいいなと思っている。

佐野 地域教育会議の目指すものにより近づいていかなければと思っている。中原では、子どもの意見表明の場として「子ども座談会」、住民の意見集約の場として「教育を語る集い」をやっている。

最大限に活用しよう

吉田 地域教育会議のシステムを最大限に活用しなければ損。中学校区の連携をとってあげるのが行政区の役割でもあり、広範囲の子どもたちの声を聞けるのもここだと思う。

司会 組織代表の委員が多いと形式的になり、実質的な活動がやりにくい。行

政区が中学校区の活動をつなげて、お互いに刺激しあえるといい。

庄司 参加しやすいような場づくりとしてナイトウオークや地名辞典とかを作ってみたくて話している。学校も地域も何かやろうとしているので波に乗れたら嬉しい。住民委員の拡大も望んでいる。

熊谷 私が住んでいる板橋では、子どものことや教育のことを地域で話し合おうとするものすごい努力がいる。川崎は学校に入っていける条件ができていて、自分の力も発揮でき、仕事上も人間的にも学べる。川崎のそんじょたいいい点を活用してほしい。学校と地域がどのようにかわっていくかは委員の力次第である。

夏井 当初できた規約が一人歩きしている部分がある。規約も活動が活発になるためなら変えていい。学校にもどんどん刺激を与えてほしい。活動する「人」がポイントだと思う。私も現場でやりたい。

司会 イギリスでは地域の人々が学校をつくっている。親が学校を選ぶこともできる。地域の人と学校が力を合わせていい学校や地域の力をつけていきたい。

(編集:井上、高木、生駒)

